

静岡県で活躍する医師



静岡県立静岡がんセンター

副院長・小児科部長

石田 裕二 医師

——— 現在のご勤務先での現況について（印象や取組まれていること等）教えてください。

石田 医師 小児科診療に関して

小児科医師として、がんセンターの小児科の役割を定義して、チーム医療を実践しています。がんセンターの小児科には、大きく2つのミッションがあります。小児がん診療とがん診療における子育て支援です。

静岡がんセンター小児科は、成人を主体としたがん専門病院の中で、少数例の小児がん患者さんの診療を担当しています。成人がん施設のもつ先端医療機器、各臓器のがん専門医との連携、専門性の高い技能を持つ多くの職種の人たちに支えられて、がんセンターであるからこそできる、小児がん診療を提供できるように日々努力しております。

そしてもう一つは、子育て世代のがん闘病支援です。この支援の対象は、闘病中の親の支援、そのパートナー、そして、大切な家族の一員であるこどもたちです。

CLS(チャイルドライフスペシャリスト)を筆頭としたチームで、親から見た育児支援、そして、こどもを一人の大切な家族の力としてささえるために、面談をしたり、病院での安心できる時間や環境の提供に努力しています。

AYA世代診療に関して

当センターは小児科のあるがんセンターとして、こどもと言われる年齢から、成熟した成人の間にいるAYA (Adolescent and Young Adult)世代のがん患者さんの診療に力を入れています。希少性の高いがんが多く、さまざまなニーズを持つこの世代に、病院のさまざまな職種がチームとして対応するようにしています。

病院の管理業務に関して

副院長や感染対策室長としての仕事は、管理者としての仕事で、2年ほど前から取り組んでいます。病院という大きな組織が、よりよく動くために、保健所勤務、診療所勤務、そして小児がん診療で学んできたことを活かして、個人個人が、働きやすい環境を作るために、微力ながら、普段行っているさまざまな業務などの意義を言語化することを大切に、病院に貢献したいと考えています。



小児科を専攻したきっかけと魅力を教えてください。

石田 医師 全てのこどもは、優しい笑顔とたくさんのエネルギーを持って、生まれてきて、育っていきます。その傍にいて、体や心が、本来の力を失った時に、力になれるような医師になりたいと思って、小児科を選びました。

こどもたちは、大変正直です。こんなことを聞かれたことがあります。『先生は、頭いいの？』と受け持ちのお子さんから直球の質問です。少し考える私に、『自分の先生は、病院中で一番頭が良くないと困る！』と。患者さんの求める気持ちをまっすぐに考えさせられました。誤魔化しが通じなく、心の中を見つめられているように感じる小児科医療での緊張感は、小児科医療を続けるための力になっています。

若手医師との関わりや指導について教えてください。

石田 医師 当院の小児科は、他施設できちんと訓練を受けた医師ばかりです。若手から何を学び、自分が伝えられるものが何かという視点で、会話をするように努めています。仕事の量をこなすには、人の数が必要ですが、大切なことは、それぞれの人が、その人の持つアイディアをよりよく集団に伝えて、集団が成長し、それが個人の成長につながることを思っています。

医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします。

石田 医師 こどもは、優しく強い存在です。傷つきやすいですが、立ち上がる力を持っています。そんなこどもたちの傍にいて、こどもの力を間近に感じることでできる小児科はとても魅力がある仕事だと思います。是非、こどもの傍に立ってみて、こどもの力を感じてみてください。たくさんの力をもらえんと思います。小児科の仲間が増えて欲しい気持ちはありますが、よくよく考えると、大人にも同じ魅力があるのかもしれない。病と戦う患者さんの傍で、その力になることができるかもしれない医師という仕事の魅力は、どの診療科でも味わえることだと思います。あなたを待っている未来の患者さんがいます。素敵な医師になってください。



プロフィール

石田 裕二 医師

趣味

・散歩
・ジョギング

1992年3月	自治医科大学卒業
	神奈川県庁勤務、県立厚木病院にて初期研修
1995年4月	神奈川県立煤ヶ谷診療所
1998年4月	神奈川県立こども医療センター 兼務 保健所勤務
2002年10月	静岡県立静岡がんセンター小児科
2004年4月	同上 医長就任
2005年8月	同上 部長就任
2022年4月	同上 副院長 兼務 小児科部長、感染対策室長